

山行報告書

報告書作成

2005年12月20日

山名 [山域]	大日ガ岳 [奥美濃]	目的と方法	雪上訓練
登山期間	12月17日(土) ~ 12月18日(日)	山行形態	テント泊
参加人数	12名		

行動記録

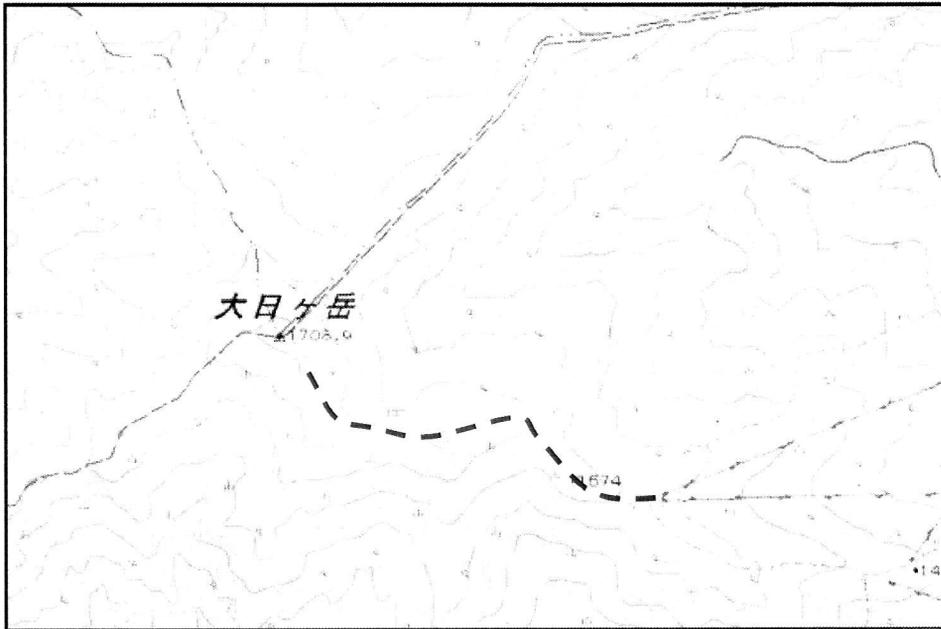
17(土) 雪

旧市民病院P(516) == 岡崎IC(521) == 長良川SA(630) == 高鷲IC(736) == 高鷲スノーパークP(800) ++
ゴンドラ上(916,1007) -- 前大日ガ岳(1309) -- 大日ガ岳手前(1430) -- 前大日ガ岳(1525) -- ゴンドラ上(1625)

18(日) 雪

ゴンドラ上(1235)++高鷲スノーパークP(1240,1335)==湯の平温泉(1410,1510)==高鷲IC(1530)==
尾張一宮PA(1730,1810)==岡崎IC(1900)==旧市民病院P(1905)

概念図



日誌

～何故だろう？例会時と皆の雰囲気違って見える～

今回、自分にとって初めての雪山だ。6名ずつSさんとさんの車に分かれ、いざ出発。自分はさんの車へ。車中ではさんのDVDに編集した沢登りや山スキーの映像を十分満喫した。こんな楽しみ方があるとは……。高鷲スノーパークのゲレンデに皆揃ったとき、冒頭の疑念を抱く。その時点ではまだ答を見いだせなかった。ゴンドラ終点まで行き、まずラッセルのやり方をNさんから教えてもらう。思うように進まない。後ろの方は楽だが、順番がひとつずつ繰り上がるごとに段々きつくなる。自分が先頭にたつときは汗が一気に吹き出した。雪山は暑いとは聞いていたがこのことだったのか。しかし、何故こんなに楽しいのだろうか？先頭にたつこと3回目のとき、雪と風が一段と激しくなり、ホワイトアウト状態となった。頂上まではあと少しだったが、撤退となる。行きについているはずのトレースは見事に消滅していた。ところどころに置いた赤布をみるつけるとほっとする。なんとか暗くなる前にゴンドラ終点駅までたどり着いた。夜の宴は6名ずつに分かれ、ご馳走にありつく。皆で囲む鍋は格別だ。9時ごろ就寝するが、ときおり目がさめるとテントがこちらに迫ってきている。げんこつで雪を叩く。低反発枕みたいだ。2時ごろ、外からのKさんの声で雪かきに出る。腰の少し下ぐらいまで積もっている。Hさんに雪かきの要領を教えてもらう。ようやく設営時の状態に戻ったのは3時だった。翌日は2班に分かれ、自分の班はまずビーコンの練習をする。全然探し当てることが出来ない。いつか雪のないところで練習しようと思った。次は雪洞ほりだ。さん、Kさんが手際よく掘り進めて行く。出来上がった住処に身を預けると、自分だけの秘密基地にもぐりこんだ気分だ。最後は皆で壊して遊ぶが、さんの豪快なダイビングを自分も真似てみた。子供に戻った気分だ。そうか。これだ。皆もきっと童心に返り、わくわくした気分だったんだ。ようやく冒頭の疑問が解決した。雪山はシンプルな中に無限の要素がぎっしりと詰まった知的な遊びだと思った。